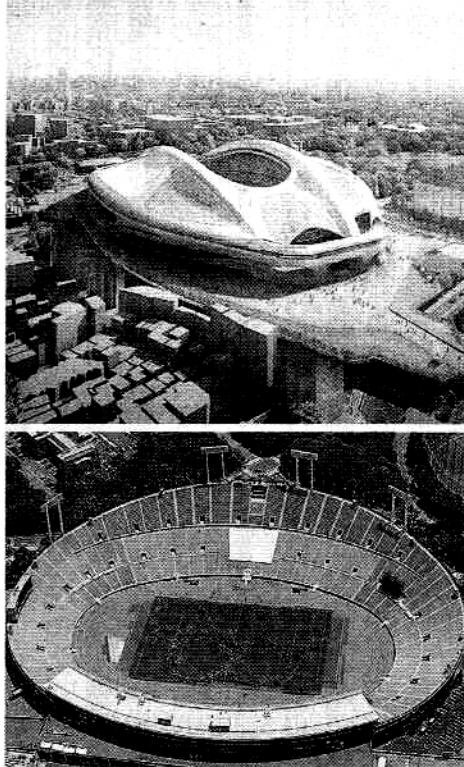


文化

✉bunka@asahi.com

火曜・水曜掲載



上 新国立競技場の完成予想図＝日本スポーツ振興センター提供
下 現在の国立競技場＝本社ヘリから

オリンピック憲章がいわば五輪の憲法なら、環境法あるいは行動計画に当たるのが「オリンピックムーブメント・アジェンダ21」だ。国際オリンピック委員会（IOC）が環境サミットをふまえ1999年に採択した。いま国立競技場の建て替えに多くの批判が出ている。ザハ・ハディー案を選んだコンクールの審査員たちは、このアジェンダを知らなかつたのではないか？

森まゆみ 作家

アジェンダいわく、施設は「地域にある制限条項に従わなければならず、また、まわりの自然や景観を損なうことなく設計されなければならない」。神宮外苑は15mの高さ制限のある風致地区だ。現競技場ですら高さ29mで超えていたが、事業主体の日本スポーツ振興センター（JSC）は、これを大幅に超える70mまで良いとして、新築案を募集した。このこと自体、アジェンダ違反であったのではないか？

環境アジェンダ違反 ■ 「もったいない」で改修

11年、久米設計に777億円で改修可能とする案を出させながら、公開要求にも応えず、握りつぶした。5月末に基本計画が発表されたが、神宮外苑の木を切り、公園を潰し、都営住宅の人々を移転させ、重要文化財聖德記念絵画館の左上に大きくそびえて景観を破壊する。情報公開、弱者や少数派への配慮、利害関係者との協議・協調もアジェンダの求めるところであり、「持続可能な開発」という目標を達成する必須条件である。

さらに、帝京大の三上岳彦教授（都市気候学）は「神宮、新宿御苑、東宮御所などの都心の緑がヒートアイランド化を防ぐ南風の道となつていて」という。そこに「巨大な温室」をおくることは避けなければならない。

アジェンダはまた、「廃棄物の量は少なく」することや「再生可能資材の利用」を奨励するが、現競技場を解体すれば大量の廃棄物が出るることは間違いない。IOCはこれだけ

もともとアジェンダは「既存の競技施設ができる限り最大限活用」することを求めている。JSCは20

引き返す勇気を持とう。ハディード案を白紙撤回しよう。64年五輪の思い出の詰まった競技場を美しく、使いやすく改修すれば次の五輪には十分間に合う。8万人収容に増やすこともできるし、耐震補強からトイレ、エレベーター、レストランの増設、最新メディア対応まで改修で可能だと、伊東豊雄さんはじめべテラスの建築家はいつていて。あるいは高さを押さえたシンプルな競技場の新築だって選択肢に入ってくる。

招致都市の東京都には環境アセスメントの厳格遂行をのぞみたい。実施設計も本格的な環境アセスも終わらないうちに事業に着手してはならず、解体は中止するのが当然だ。20世紀的な国威競揚のための重厚長大な建物を造るより、環境に配慮したつましいスタジアムの方が、先進国に求められるものだろう。名譽ある撤退を誰も責めはしない。都のプラン通りレガシー（遺産）を尊重し、日本の「もったいない」の気質を発信することこそ、世界に尊敬される道ではないか。

（寄稿）